

# 急性心筋梗塞巣評価法としての<sup>99m</sup>Tc-PYP 極座標表示

塩崎 潤<sup>※</sup> 宮崎 吉春<sup>※</sup> 井上 寿<sup>※</sup>  
村田 義治<sup>※</sup> 藤岡 正彦<sup>※</sup> 伊藤 広<sup>※</sup>  
宮永 盛郎<sup>※</sup> 谷口 充<sup>※</sup> 油野 民雄<sup>※※</sup>

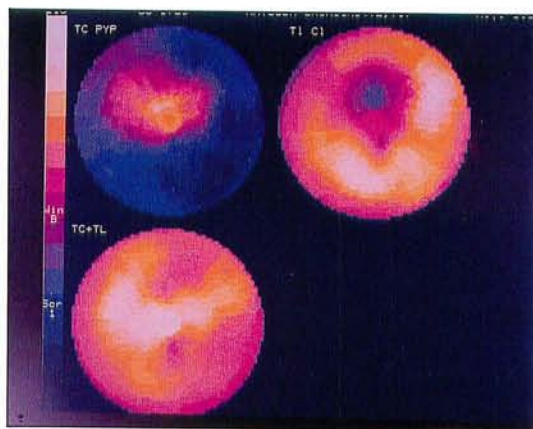
急性心筋梗塞巣の位置や範囲をより判り易くする方法として、二核種同時収集を行い、Tc-PYP像を極座標表示することを試みた。

同時収集時の核種相互の影響は、基礎的検討結果、SPECT像上の影響に比べ極座標表示像では、殆ど無視でき臨床に応用した。

TlCl 4mCi, Tc-PYP 10mCi を投与し、二核種同時収集を行い、通常のSPECT像(図1)にTl及びPYPの極座標表示像(図2)を追加し臨床的検討を行った結果、急性心筋梗塞巣の位置及び広がりの評価に有用であった。



▲図1 Tc-PYP SPECT像



▲図2 Tc-PYP, TlClの極座標表示表

※公立能登総合病院  
※※金沢大学核医学